

自由選択科目、教育実践特別講義

担当教員：隅田学、福田安典、バージン・ルース（国際交流センター）、菅谷成子（法文学部）、深田昭三、苅田知則、高橋治郎、熊谷隆至、ボグダン・デイビッド・リチャード、池野修

フィリピンでの教育実践体験で学生が得たもの

幼児教育講座・深田昭三

授業の背景

平成 19 年 12 月 26 日に、愛媛大学教育学部とフィリピン大学ディリマン校教育学部との間で学术交流協定が締結された。この協力関係を背景に、平成 20 年度から 2 箇年間の研究課題「フィリピン大との連携による国際教育人材育成」が、愛媛大学教育改革推進事業（愛大 GP）に採択された。本授業は、この研究課題の支援を受けて愛媛大学の学生をフィリピン大学ディリマン校に派遣し、フィリピン大学の附属学校等で教育実践体験等を行うものである。本授業を受講し、教育実践体験を行うことで 1 単位が与えられる。

受講者数

本授業は、フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としていたため、最終的に渡航した 26 名が受講者数となる。学部構成と、各授業グループは表 1 のとおりである。

表 1 受講者の学部構成とグループ

学部構成	
教育学部・教育学研究科	19名
農学部	4名
工学部	2名
理工学研究科	1名
授業グループ	
幼稚園グループ	5名
小学校（昆虫）グループ	3名
小学校（気候）グループ	3名
中学校（電池）グループ	4名
中学校（反応）グループ	3名
中学校（火山）グループ	4名
日本語グループ	4名

授業の概要

本授業は、大きく分けて次の 3 つの要素から成り立っていた。詳細は表 2 のとおりである。

(1) 日本での授業準備

渡航前の 11 月中旬から 1 月上旬まで、各授業グループに分かれて、担当教員の指導を受けなが

ら授業の指導案作りや、教材作りを行った。12 月上旬には、フィリピン大のアメリカ・ファハリド先生を愛媛大学に招聘し、学生が作成した指導案について丁寧に指導していただいた。

(2) フィリピンでの教育実践体験

フィリピンに渡航し、現地で授業実践をすることに加えて、フィリピン大附属学校以外の現地校の見学や、様々な文化体験なども行った。この教育実践体験の詳細については、次節で報告する。

(3) 成果報告会

1 月下旬にフィリピン大のグレッグ・パウイレン先生を愛媛大学に招聘し、氏を交えて学生グループによる授業実践の成果報告会を行った。また、パウイレン先生に加えて、鈴鹿基廣先生（愛媛県教育委員会）、笹館孝一先生（JICA 青年海外協力隊事務局）を迎えて公開成果報告シンポジウムも

表 2 授業スケジュール

7月1日	「フィリピン大との連携による国際教育人材育成」が愛媛大学教育改革推進事業（愛大 GP）に採択決定
9月上旬	フィリピン渡航と現地校視察（ルース先生、ボグダン先生）
9月25日 ～28日	フィリピン渡航と現地校視察（苅田先生、深田）
9月下旬	本授業実践を「教育実践特別講義」として行うことを関係委員会にて了承
10月19日、 22日	学生向けの授業ガイダンス
11月13日	第1回全体講義と、授業グループ分け
12月1日 ～11日	フィリピン大学ディリマン校アメリカ・ファハリド先生、愛媛大学訪問
12月11日	アメリカ・ファハリド先生による第2回全体講義
1月8日	第3回全体講義（渡航ガイダンス）
1月9日 ～16日	フィリピンへの渡航と現地での教育実践体験の実施
1月26日 ～2月1日	フィリピン大学ディリマン校グレッグ・パウイレン先生、愛媛大学訪問
1月29日	学生グループによる授業実践の成果報告会
1月31日	公開成果報告シンポジウム

行い、学生が授業実践の成果発表を行うとともに、グレッグ・パウイレン先生からは、フィリピン大学附属学校およびフィリピン大学日本語コースの先生方からの評価結果を報告していただいた。

フィリピンでの教育実践体験

フィリピンでの教育実践体験は、大きく分けて次の3つの要素から成り立っていた。詳細は表3のとおりである。

(1) 現地校の見学

公立小学校である Libis Elementary School と、私立のモンテッソーリ学校（幼児クラスから小学校、中等学校、カレッジまでを含む大規模校）である O.B.Montessori School を訪問、見学した。

(2) 授業実践

幼稚園・小学校・中学校グループはフィリピン大学附属学校において、日本語グループはフィリピン大学日本語コースにおいて授業実践を行った。授業実践に先立って授業観察と現地校の授業担当教員との打合せを行い、授業後は授業担当教



表3 渡航スケジュール

1月9日(金)	午後9時 愛媛大学を出発	
1月10日(土)	午前9:55 関西空港出発	
	午後1:35 ニノイ・アキノ空港到着 ・Lancaster Hotel チェックイン ・アメリカ・ファハリド氏宅にて歓迎パーティ	
1月11日(日)	・Villa Escudero 訪問 ・Tiendesitas にて夕食	
1月12日(月)	・Libis Elementary School 訪問 ・O.B.Montessori School 訪問 ・イントラムロス見学 ・モール・オブ・エイジアにおいて夕食・ショッピング ・UP NISMED HOSTEL チェックイン	
1月13日(火)	UP にて教育学部長訪問	
	幼稚園・小学校 中学校グループ	日本語グループ
1月14日(水)	・UPIS にて授業 見学 ・授業担当教員と の打ち合わせ ・授業準備	・UP にて授業実 践 ・授業後の省察
	・UPIS にて授業 実践 ・授業後の省察	・幼稚園グループ の活動に参加
University Hotel にてお別れパーティ		
1月15日(木)	午後2:20 ニノイ・アキノ空港出発 午前7:05 関西空港到着	
1月16日(金)	午前6時 愛媛大学到着	

注：UP は University of the Philippines Diliman、UPIS は、UP Integrated Schools を示す。

員と授業を振り返りながら研究協議を行った。

(3) 文化体験

マニラ近郊の Villa Escudero と、マニラ市内のイントラムロスを訪問・見学した。また、歓迎パーティ、お別れパーティ等も行われた。

学生による成果評価

(1) 体験の印象度と有用度

今回の授業の各体験がどの程度印象に残り、有用であったかを尋ねた結果を表4に示した。

表4 各体験の印象度と有用度評定

	印象	有用
1)日本での指導案の作成・授業準備	4.35	4.65
2)日本でのファハリド先生の指導	4.17	4.48
3)歓迎パーティ	4.61	4.61
4)文化体験(Villa Escudero)	4.70	4.57
5)学校訪問(公立小、モンテッソーリ学校)	4.90	4.95
6)文化体験(イントラムロス)	4.41	4.27
7)実践実施校での担当教師との打ち合わせ	4.41	4.73
8)授業実践	4.96	5.00
9)お別れパーティ	4.70	4.65
10)報告会でのプレゼンテーション	4.26	4.43

注：「全く印象に残らなかった」(1)から「強く印象に残った」(5)、または「全く有用ではなかった」(1)から「とても有用だった」(5)の5段階評定。最も評定の高かったもの3つに下線を付した。

授業実践と学校訪問は5点にきわめて近い評定点であり、ほぼすべての学生が強く印象に残り、とても有用だったと認識していたことになる。また、すべての活動が4点以上の評定点を得ており、参加学生は、どの活動ともかなり有用であり、かなり印象に残ったと考えていることが分かる。

(2) 教育実践体験を通じた成長

この教育実践体験をとおして、どのような点で成長できたかと問に対する代表的な回答を表5に示した。表5に示した「国際的な視野の広がり」「英語力の向上」「日本のよさの再認識」「共同作業の大切さ」のほかにも、「授業作りの力がついた」「授業準備の大切さが分かった」「気持ちを伝えることの大切さが認識できた」「国際的な活動ができる力がついた」「学習意欲が向上した」など様々な成長が報告された。

(3) フィリピンでの渡航前後の評定の変化

授業への興味と授業で行ってみたいこと、自己の能力評定については、最初の授業ガイダンス、渡航直前、渡航直後の3回、同じ項目で評定を求め、その結果を表6と表7に示した。ここで自己の能力評定が大きく伸びたことが注目される。とりわけ特徴的であった4項目については、図1に結果を示した。最初の評定で評定値の低かった「フィリピンの子どもたちにふさわしい教材を作ることができる」「フィリピンの子どもたちによく分かるように説明することができる」については、渡航前の準備の段階から能力評定が伸び、渡航中にさらに伸びるという変化を見せた。一方、「日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる」や「世界のさまざまな国で、自分を役立てることができる」については、準備段階ではあまり大きな伸びを示さなかったものの、渡航によって大きく自信を得ていることが分かる。

(4) 現地校の教員からの評価

授業実践を行った現地校の教員から受けた評価について、その平均評定値を表8に示した。3点満点のClassroom Observationで2.5以上、4点満点のそれ以外の観点で3.5以上の評定を得た項目は、全20項目のうち12項目であり、「公平で敬意のある教室風土を作る」などの項目で非常に高い評価を得た。反面、「生徒にとって分かりやすい英語を用いる」では、やや低い評定であった。

表5 教育実践体験を通じた成長

(国際的な視野の広がり)

今回このような体験を通して、かなり視野を広げることができたと思う。今まで日本のしか愛媛しか知らない私にとって、海外というのは、とてつもなく遠く、巨大な存在だった。日本から出て1週間フィリピンの文化に触れることで、日本に対する見方も変わったし、自分は本当に恵まれていると再認識することができた。本当に今回のフィリピン研修は素晴らしいもので、今後の人生の選択において、かなり影響を与えようと思う。

(日本のよさの再認識)

日本とフィリピンでは教え方が異なることを知り、日本には日本の良い授業の特徴があることが分かった。また、フィリピンにはフィリピンの良い特徴があった。それらを上手に取り入れて授業構成を考えることができるようになった。重要だったことは、海外の授業を見学したことだと思います。日本の授業を見学しても、今回ほど日本の授業の良さは分らなかったと思います。

(英語力の向上)

まずは授業の準備から実践において、自分が成長できたと思うことは、授業に関わる英語力の向上です。自分たちの授業に必要な専門用語、道具の名前などを含め、語彙力のアップにつながったのではないかと思います。指導案作成の時から辞書と向き合いながら、日本語を英語に直し、また先生方に訂正してもらうというサイクルを何度も繰り返して練習することができたので、英語を自分のものにしていくことができたのではないかと思います。

(共同作業の大切さ)

授業を班で作り上げていく上で、それぞれの都合が合わず、同時に共同作業がしにくい中で、おのおのが自分の得意分野を分担、担当し、できることをすることの大切さを学んだ。自分はリーダーであったが、他人に指示することが苦手で、全て自分で抱え込んでしまいがちだが、今回の活動を通して、仲間を信じ、仕事を割り振ることの大切さを学んだ。

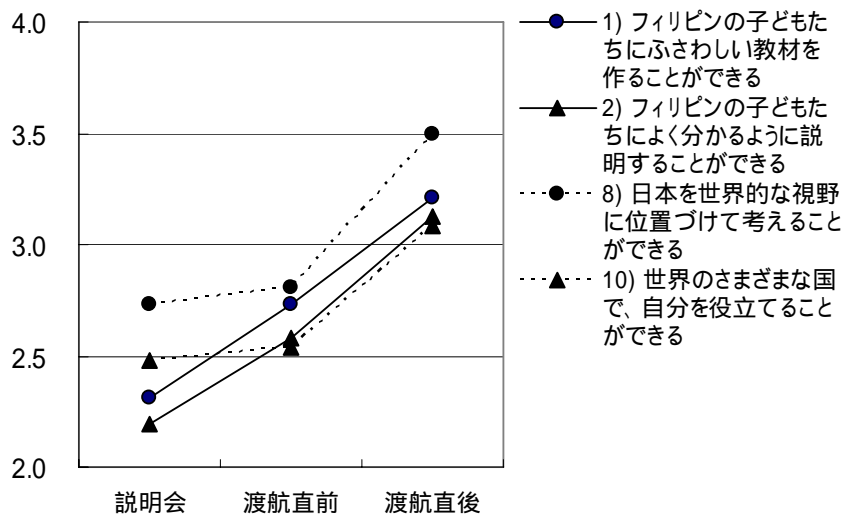


図1 自己の能力評定の推移

注：評定値の4.0は「まあまあできる」、3.0は「なんとかできる」、2.0は「ほとんどできない」を意味する。説明会は10月のガイダンス、渡航直前は1月8日の渡航ガイダンスにおいて、渡航直後は1月31日のシンポジウムで調査したものである。

表6 授業への興味と授業で行ってみたいことへの評定

	説明会	渡航直前	渡航直後	渡航前までの伸び	渡航による伸び	全体の伸び
1) この新しい授業科目に興味がある	4.50	4.31	<u>4.71</u>	-0.19	<u>0.40</u>	0.21
2) 海外での異文化体験に興味がある	<u>4.46</u>	<u>4.54</u>	<u>4.79</u>	0.08	0.25	<u>0.33</u>
3) フィリピンの教育や文化に興味がある	4.00	4.08	4.46	0.08	<u>0.38</u>	<u>0.46</u>
4) 英語での教材作成に挑戦してみたい	3.63	3.92	4.08	<u>0.29</u>	0.16	<u>0.45</u>
5) 海外での教育実践体験を行ってみたい	4.31	4.16	4.54	-0.15	<u>0.38</u>	0.23
6) 海外の学校の授業を見学してみたい	4.38	<u>4.69</u>	<u>4.71</u>	<u>0.31</u>	0.02	0.32
7) 海外の子どもたちと触れ合いたい	<u>4.69</u>	<u>4.73</u>	<u>4.83</u>	0.04	0.10	0.14
8) 海外の大学生と知り合いたい	<u>4.46</u>	4.31	4.54	-0.15	0.23	0.08
9) 海外の人と英語で会話してみたい	4.38	4.31	4.54	-0.08	0.23	0.16
10) 海外の大学の先生に教わってみたい	4.19	4.23	4.46	0.04	0.23	0.27
平均	4.30	4.33	4.57	0.03	0.24	0.26

注:「全くそう思わない」(1)から「強くそう思う」(5)の5段階評定。最も得点の高かったもの3つに下線を付した

表7 自己の能力評定

2.どの程度できると思えますか	説明会	渡航直前	渡航直後	渡航前までの伸び	渡航による伸び	全体の伸び
1) フィリピンの子どもたちにふさわしい教材を作ることができる	2.31	2.73	3.21	<u>0.42</u>	0.48	<u>0.90</u>
2) フィリピンの子どもたちによく分かるように説明することができる	2.19	2.58	3.13	<u>0.38</u>	<u>0.55</u>	<u>0.93</u>
3) 英語で自己紹介をすることができる	<u>3.46</u>	<u>3.42</u>	<u>3.83</u>	-0.04	0.41	0.37
4) 英語で説明をしたり会話をしたりすることができる	2.63	2.85	3.00	0.21	0.15	0.37
5) 英語で電子メールや手紙を書くことができる	2.92	2.88	3.29	-0.04	0.41	0.37
6) フィリピンの文化や習慣を説明することができる	1.77	1.92	3.13	0.15	<u>1.20</u>	<u>1.36</u>
7) 日本の文化や習慣を説明することができる	<u>2.94</u>	<u>3.15</u>	<u>3.63</u>	<u>0.21</u>	0.47	0.68
8) 日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる	2.73	2.81	3.50	0.08	<u>0.69</u>	<u>0.77</u>
9) 世界のさまざまな人々と交流することができる	<u>3.00</u>	<u>3.12</u>	<u>3.58</u>	0.12	0.47	0.58
10) 世界のさまざまな国で、自分を役立てることができる	2.48	2.54	3.08	0.06	0.54	0.60
平均	2.64	2.80	3.34	0.16	0.54	0.69

注:「全くできない」(1)から「十分にできる」(5)の5段階評定。最も得点の高かったもの3つに下線を付した

表8 現地校の授業担当教員による評価

Classroom Observation (3=yes; 1=No)	Observing the class with proper decorum	<u>3.00</u>
	Paying enough attention to the class activities	<u>3.00</u>
	Recording observation of the class in a notebook.	1.83
	Well-prepared for observing classes	2.86
	Understanding the content of the lessons	2.57
Making Subject-Matter Comprehensible and Engaging Students in Learning (4=excellent;1=unsatisfactory)	Demonstrates knowledge of subject matter content	3.00
	Effectively communicates instructional and learning goals to students	3.29
	Engages students in problem solving, critical thinking & other activities that make subject matter meaningful and interesting	<u>3.71</u>
	Facilitates learning experiences that promote self-directed, reflective learning for all students	<u>3.71</u>
	Monitors student learning during instruction to ensure that they are progressing toward achievement of the objectives of the lesson	<u>3.74</u>
Planning Instruction and Designing Learning Experiences for Students (4=excellent;1=unsatisfactory)	Creates instructional plans that allow adjustment for students needs.	<u>3.71</u>
	Draws on, plans for, and uses students' prior knowledge and experiences, interests and developmental learning needs to meet content and learning needs	<u>3.57</u>
	Establishes goals for students learning that reflect content standards and students need	3.29
	Develops and sequences instructional materials (lesson and unit plans) and activities to accommodate and support diverse learning needs	<u>3.71</u>
	Devises ways of teaching, activities, and materials to enhance students' learning	<u>3.57</u>
Creating and Maintaining Effective Learning Environments for Student Learning (4=excellent;1=unsatisfactory)	Implements classroom procedures and routines to establish a supportive, positive, and productive learning environment for all students	<u>3.71</u>
	Establishes a classroom climate that promotes equity, fairness, and respect	<u>3.86</u>
	Establishes and maintains high standards for students' behavior	<u>3.71</u>
	Allocates instructional time effectively	3.43
	Uses English that is understandable to students	2.83